

精神保健医療体制の課題と改革

医療の質の向上

生活の質の向上

自殺の減少

精神保健医療の改革

●うつ病等の早期発見の取り組み

- ・睡眠キャンペーン等による普及啓発
- ・かかりつけ医と精神科医との連携システムの構築
- ・相談支援やゲートキーパー機能の充実
- ・各地域の精神科医療資源を容易に検索できる環境整備
- ・生活保護受給者の相談・支援体制強化
- ・地域での孤立防止支援

●認知行動療法など治療法の向上

- ・うつ病治療に効果が期待される「認知行動療法」の質の向上と普及のための研修等の実施
- ・医師・看護師・精神保健福祉士・心理職等の多職種の参画によるチーム医療の充実

●アウトリーチの充実 (訪問支援)

- ・未治療や治療を中断してしまった患者やその家族への訪問での医療や生活支援

●一般医療と精神科医療の連携

- ・自殺未遂者の再企図防止のため、「リエゾン診療」など救急医療と精神科医療の連携強化

●地域移行の推進

●精神病床の減少

●手厚いマンパワーの確保

精神保健医療の課題

入院医療
中心

薬物療法
中心

地域生活への
支援が不足

マンパワーが
手薄

身体医療との
連携が不足

- ・精神疾患での受診患者:320万人
うち気分障害(うつ病等):104万人【平成20年患者調査】
- ・多くの自殺の要因に、うつ病・統合失調症・依存症などの精神疾患